

令和8年1月15日

# 開進三中だより

< 第9号 >

—◆たくましい人◆考える人◆心豊かな人◆助け合う人— 練馬区立開進第三中学校

## 過去の出来事を未来の教訓へ

校長 堀 健一

あけましておめでとうございます。令和8年が始まりました。本校は令和9年度に創立80周年を迎えます。そこで70周年の後の出来事を振り返ってみました。その一つに新型コロナウイルスがあります。当時、2ヶ月以上の臨時休校がありました。今の中学生が小学校低学年だった頃でしょうか。あの頃、私たちは誰も経験したことのない状況の中で、日々の学びや生活を守るために、手探りで努力を重ねました。マスク越しの会話や、制限のある学校行事、離れて過ごす友人との時間。多くの我慢と工夫の連続でした。しかし、振り返ってみると、あの困難な経験から得た「正の遺産」もあります。

第一に、私たちは「つながることの大切さ」を再確認しました。会えない日々が続いたらこそ、人と人とのつながりの尊さを感じました。オンラインでの交流やメッセージのやり取りなど、直接会えなくても支え合える新しい形の絆が生まれました。「離れていても心はつながる」。それは、これからも大切にしたい価値です。

第二に、「学びの可能性の広がり」を実感しました。リモート授業やデジタル教材の導入は、これまでの学びを大きく変えるきっかけとなりました。教員も生徒も初めは戸惑いながらも、次第にICTを活用し、自ら考え、主体的に学ぶ姿が見られるようになりました。学びが「学校の中だけのもの」から「いつでも、どこでも学べるもの」へと広がったのです。この柔軟な姿勢は、変化の時代を生きる上で欠かせない力となるでしょう。

そして第三に、「思いやりと支え合いの心」が育ちました。マスクの着用や手洗い、健康への気づかいは、自分のためだけでなく、周囲を守る行動でもありました。「自分の行動が誰かの安心につながる」という意識が、子どもたちの中にも自然と芽生えたことは、教育にとって何よりの成果だったと感じています。

コロナ禍は確かに多くの困難をもたらしましたが、それを通して私たちは人として、そして地域社会として成長する機会を得ました。人とのつながりを大切にし、変化を受け入れて前に進む柔軟さをもち、他者を思いやる優しさを育む。これらの学びこそ、未来に受け継ぐべき「正の遺産」です。

今、学校には子どもたちの笑顔と活気が戻っています。しかし、あの経験を「過去の出来事」として忘れてしまうのではなく、「未来への教訓」として生かしていくことが大切です。

これからも、80周年に向けて学校・家庭・地域が力を合わせ、子どもたちが安心して学び、夢を描ける環境をつくっていきたいと思います。

## おやじの会主催「部活に挑戦！」 11月22日（土）・12月13日（土）

おやじの会の声かけで、恒例の「部活に挑戦！」が行われました。現役・卒業・男女を問わず、保護者が中学の部活動に挑戦し、今回も和やかに、時には真剣な雰囲気の中、温かい交流ができました。



【野球部に挑戦】



【テニス部に挑戦】



【サッカーチームに挑戦】



【ソーランクラブ演舞見学】



【卓球部に挑戦】



【バレーチームに挑戦】



【将棋部に挑戦】



【吹奏楽部を体験】



【バスケ部に挑戦】

## あいさつスマイルクリーン運動 12月16日（火）～22日（月）

<12月16日、18日、22日に実施>

生徒会・美化委員会の呼びかけで実施しているボランティア活動です。生徒はもちろん、教職員、保護者、そして地域の方々が参加してくださいました。ボランティアの輪で、学校がきれいになり、心もきれいになるような思いがしました。

